

学校法人日本工業大学 中期事業計画

令和7(2025)年度～令和11(2029)年度の5ヵ年計画

令和7年4月1日



学校法人日本工業大学 中期事業計画

令和7(2025)年度～令和11(2029)年度の5ヵ年計画

学園を取り巻く環境変化に対応する「次世代創造プロジェクト」

本学園は、平成27(2015)年度より5か年の中期経営計画である「第1次・学園強靱化プロジェクト」を発表し、スタートさせました。その成果と課題を踏まえ、令和2(2020)年度には、新たな5か年の中期計画である「第2次・学園強靱化プロジェクト」を策定し、更なる学園の強靱化に向けて、①教育力・研究力の向上強化、②経営・ガバナンスの強化、③財政基盤の強化、④社会的責務の履行、の4項目を行動目標とし、学園の永続的な発展・充実の基盤となる組織運営を実現してまいりました。

学校法人を取り巻く環境は、いま大きく変化してきております。少子高齢化が更に進行し、また地球温暖化や気候変動への取組みは、一刻の猶予もない状況であるとの認識です。加えて、令和7(2025)年4月には、私立学校のガバナンス改革を主目的とした改正私立学校法が施行され、学校法人には社会の要請に応え得る実効性の高いガバナンス改革に取り組むことが求められており、本学は、次世代を見据えた変化に挑戦していくことが必須であると考えております。

こうした課題認識を踏まえ、このたび、新たな5か年の中期事業計画を策定いたしました。

本学園は、「人を育て、前進する学園」を中期ビジョンに掲げ、学園を取り巻く環境変化に対応する「次世代創造プロジェクト」として、令和7(2025)年度から令和11(2029)年度の5年間を、一丸となって取り組んでまいります。

基本理念である「広く世界の発展と調和に貢献する先進的人材の育成」の実現に向けて努力を重ねてまいりますので、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

学校法人日本工業大学

【基本理念】 広く世界の発展と調和に貢献する先進的人材の育成

日本工業大学

【建学の精神・理念】 実工学の理念に基づく工学教育と先進的研究により、新たな価値創造と科学技術の発展に貢献する

日本工業大学駒場中学・高等学校

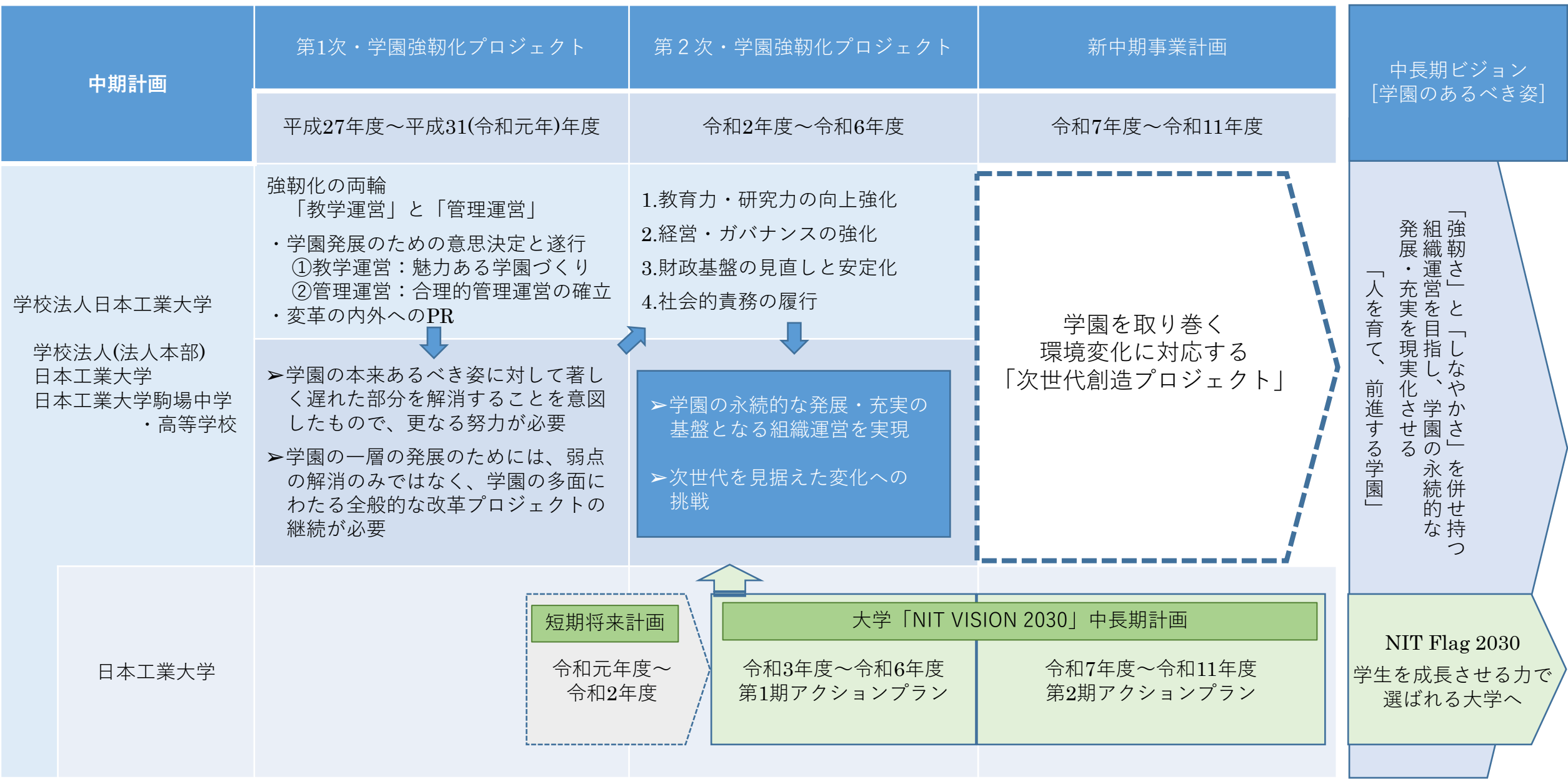
【校訓】 誠実・明朗・勤勉

【教育理念】 旺盛な探求心と共に優しく強い心を育み、未来社会に生きる力を身につける



学校法人日本工業大学の中長期ビジョン

「強靭さ」と「しなやかさ」を併せ持つ組織運営を目指し、学園の永続的な発展・充実を現実化する
「人を育て、前進する学園」



第2次・学園強靱化プロジェクト の評価と課題

【行動目標】

1. 教育力・研究力の向上強化
2. 経営・ガバナンスの強化
3. 財政基盤の強化
4. 社会的責務の履行

【評価】

- ・学園の永続的な発展・充実の基盤となる組織運営を実現

【課題】

- ・次世代を見据えた変化への挑戦

新たな
メッセージ
新たな
行動計画

新中期事業計画・学園を取り巻く環境変化に 対応する「次世代創造プロジェクト」

【新たな行動目標へ】

1. 変化対応力のある人材の育成
2. 社会的要請に応える自律的ガバナンス改革
3. 変化に備える財務体質の改善
4. 発展と調和に貢献する社会的価値の持続的創出

数値目標（主要計数）

1
変化対応力のある
人材の育成

2
社会的要請に応える
自律的ガバナンス改革

3
変化に備える
財務体質の改善

4
発展と調和に貢献する
社会的価値の
持続的創出

入学定員・募集定員充足率
(大学・中高)

女子学生入学者・生徒数の比率
(大学・中高)

留学生入学者の比率(大学)
大学合格実績(高校)

標準修業年限卒業率(大学)
学部就職率(大学)

学生卒業時満足度(大学)

R6年度比外部研究費獲得額(大学)

経営の重要な不祥事防止
経常収支差額比率
人件費比率

管理職に占める女性管理職割合
育児休業取得率(男性・女性別)
CO₂排出量(埼玉キャンパス)

環境認識に基づく課題への挑戦

社会課題

- 少子高齢化の更なる進行
- 地球温暖化・気候変動
- DXの一層の進展と先端ICT人材の不足

私学を取り巻く課題

- 多様なステークホルダーの期待に応える学校経営
- 学校法人自らが自主性をもって取り組むガバナンス改革
- 理工系分野における女性の活躍推進
- 産官学連携等による体制整備

本学の課題

- 教職協働による一体感のある運営体制の強化
- 多様な学生・生徒等入学者の受入れによる、学生生徒等納付金収入の安定的確保
- 新たな時代に対応できる人材育成のための教育の質的向上

環境変化の認識

中期事業計画の主要な計数目標

入学定員充足率 [大学] 100%

募集定員充足率 [高校] 100%

経営の重要な不祥事 ゼロ

女子入学者比率 [大学] 15%以上

募集定員充足率 [中学] 100%

経常収支差額比率 1.0%以上

留学生入学者比率 [大学] 10%以上

女子生徒の比率 [高校] 25%

人件費比率 50%未満

標準修業年限卒業率 [大学] 80%以上

女子生徒の比率 [中学] 25%

管理職に占める女性管理職割合 15%以上

学部就職率 [大学] 96%以上

大学の合格実績 [高校] 国公立20名
早慶上理30名
GMARCH100名

育児休業取得率 [女性] 100% [男性] 75%

卒業時満足度 [大学] 85%以上

CO₂排出量[埼玉キャンパス] 3,725 t-CO₂

外部研究費獲得額 [大学] R6年度比 120%以上

1.変化対応力のある人材の育成

- (1)社会環境変化に応じた教育研究組織の整備
- (2)多様な学生・生徒等入学者の受入れ
- (3)教育プログラム、学修サポートの充実・向上
- (4)学生生徒のキャリア形成支援に向けたプログラムの充実
- (5)学生生徒主体のキャンパスライフ環境の整備・充実

[大学・中高]
[大学・中高]
[大学・中高]
[大学・中高]
[大学・中高]

2.社会的要請に応える自律的ガバナンス改革

- (1)次世代に向けた持続的なガバナンス改革の推進
- (2)教職員のコンプライアンス意識の醸成と定着化(コンプライアンス体制の構築)
- (3)リスクマネジメント推進による組織対応力の強化(リスク管理体制の構築)
- (4)教職員のキャリア形成支援に向けた取組み推進

[法人・大学・中高]
[法人]
[法人]
[法人・大学・中高]

3.変化に備える財務体質の改善

- (1)学校経営の発展・充実にに向けた安定的な学納金収入の確保
- (2)組織・業務の効率化、設備の効率化等によるコスト構造の見直し
- (3)教育・研究を起点にした産官学連携等による外部資金獲得増強

[法人・大学・中高]
[法人・大学・中高]
[法人・大学]

4.発展と調和に貢献する社会的価値の持続的創出

- (1)本学が有する教育研究資源を活かした社会貢献、社会実装
- (2)DXによる組織風土の変革への取組み推進
- (3)持続可能な社会実現のための持続的・多面的な取組み推進

[法人・大学]
[法人]
[法人・大学・中高]

1. 変化対応力のある
人材の育成

(1)社会環境変化に応じた教育研究組織の整備 [大学・中高]	
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・DX、GXの進行、専門人材の需要増加、及び求められる能力の変化に対応した人材育成に向け、適切な教育研究組織等の整備を図る。 ・急速に進化するICT環境への対応や学生の主体的な学修・活動を支える施設設備、SDGsを意識した脱炭素型の施設設備の整備に努める。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部内に教育運営推進機能を組織一本化し、教育運営の方向性や具体的な教育プログラムの提案を示していく。
(2)多様な学生・生徒等入学者の受入れ [大学・中高]	
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「入試広報戦略会議」が示す基本方針・戦略等に基づき、学生の多様化に即した取組み、新たな入試制度の導入等を進める。 ・日本工業大学が求める人物像に則して多様な学生の受け入れを促進する。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・特色あるコース・クラス（英語国際クラス、文理未来コース等）毎に、多様な進路目標の実現に適う学びの充実を図る。
(3)教育プログラム、学修サポートの充実・向上 [大学・中高]	
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト型教育プログラムの拡充、新たな自発的主体的な学びの支援、ピアサポート体制の強化、入学する学生の特性に応じた支援体制の充実等を通じ、時代の変化に対応できる主体的技術創造人材の育成を図る。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・人格教育を中心に6つの教育の柱（国語教育、ものづくり教育、グローバル教育、学習指導、キャリア教育・進路教育、理数教育）を設定し、その柱ごとにさらに6つの具体的な重点取組み事項を配置した日駒新教育「ハニカム構想」を実行していく。
(4)学生生徒のキャリア形成支援に向けたプログラムの充実 [大学・中高]	
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・低年次からのキャリア教育と3年生からの就職ガイダンスを融合させ、進路・就職支援体制を強化する。 ・個々の学生の成長を促すとともに、自らの成長を他者に説明するための素材としても利用しうる「成長支援ハンドブック」を作成する。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力を育む総合探求」「TGG体験（TOKYO GLOBAL GATEWAY 体験型英語学習）」「日工大見学会・研究室インターシップ」「進路探求発表会」等の内容を充実させる。
(5)学生生徒主体のキャンパスライフ環境の整備・充実 [大学・中高]	
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自治会における活動資金獲得の創出、人間力を醸成する課外活動の支援、障がい学生支援、経済的に困難な学生支援の充実等に努める。 ・多目的トイレの増設及び車椅子利用者の利便性向上等バリアフリーキャンパスの整備、校舎の耐震補強等を推進する。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育祭・日駒祭」の運営、「クリスマスコンサート・スプリングコンサート」の運営等を通じて、生徒の主体性を育む支援の充実等に努める。

2.社会的要請に応える
自律的ガバナンス改革

(1)次世代に向けた持続的なガバナンス改革の推進 [法人・大学・中高]	
法人	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、評議員会等、各機関の職務・運営等の適切な機能発揮のために必要な研修、運用ガイドライン等の整備 ・法人・大学・中高の各管理運営機関における意思決定の円滑化と連携体制の整備 ・最適な内部統制システムの整備及び運用によるガバナンス体制の一層の強化
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「NIT VISION 2030」の実効性を高めるため、アクションプランの進捗管理と検証を組織的に行う。 ・3年ごとのサイクルとした自己点検評価等を着実に実施する。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の機能強化を図るとともに、経験・知見が豊富な人材を学校運営に活かすなど、ガバナンス体制の改革に努める。
(2)教職員のコンプライアンス意識の醸成と定着化(コンプライアンス体制の構築) [法人]	
法人	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎コンプライアンスに係る取組みのためのコンプライアンス・プログラム策定と定着化 ・コンプライアンス意識調査等、教職員の意見を改善へと反映させる仕組みの活性化・高度化 ・自己点検、監査機能、公益通報等が実効的に行われるための仕組みの活性化・高度化
(3)リスクマネジメント推進による組織対応力の強化(リスク管理体制の構築) [法人]	
法人	<ul style="list-style-type: none"> ・本法人にとって最適なリスクアセスメント手法の構築によるリスクマネジメントの高度化 ・リスク管理体制の整備と教職員の危機管理意識の醸成による組織対応力の強化、学生・生徒等への安全教育の充実 ・情報の取扱い、管理、保存を適切に行うための体制の高度化
(4)教職員のキャリア形成支援に向けた取組み推進 [法人・大学・中高]	
法人	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な視野に立った教職員のキャリア形成支援プランの策定、運用の定着化 ・人事システム運用の柔軟性を目的とした人事評価の仕組み等の検討、導入 ・ダイバシティ & インクルージョンへの取組みによる担い手の変革の推進
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・研修制度の充実などを通じ変化の激しい時代に対応できる創造型大学職員を育成する。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化・多様化する社会を切り開く教職員を育成するために研修の充実と、教員の「自己評価シート」、職員の「自己宣言シート」等人事制度の適正な運用による健全な学校運営を目指す。

3.変化に備える
財務体質の改善

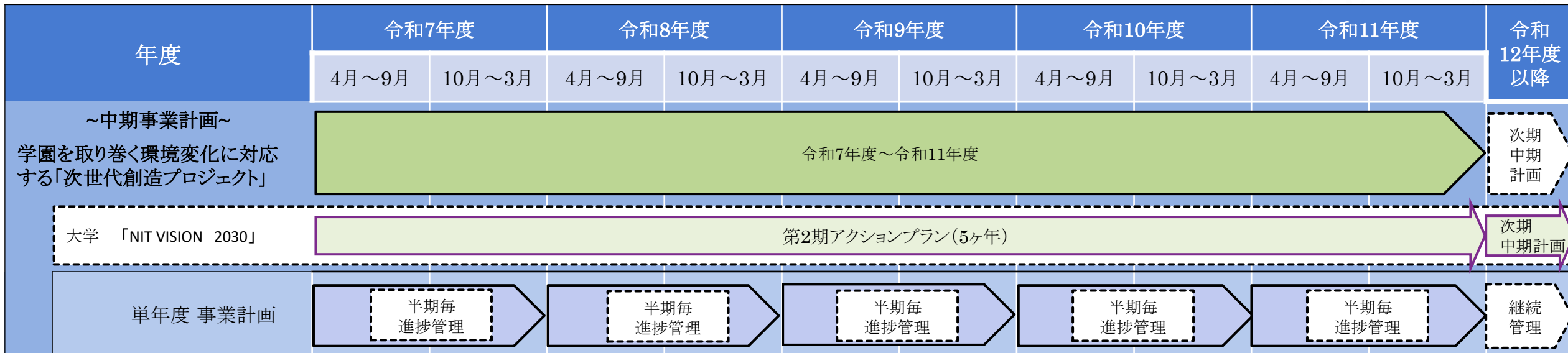
(1)学校経営の発展・充実に向けた安定的な学納金収入の確保 [法人・大学・中高]	
法人	・本学の様々な取組みを社会に効果的にわかりやすく発信していくための広報体制の構築
大学	・広報の充実、重点的な広報活動、オープンキャンパスの充実等を図り、学生確保に繋げる。 ・「DXハイスクール支援プロジェクト」等を通じて、高大連携推進による高校・生徒等ステークホルダーとの信頼関係を強化する。
中高	・効率的収容人数から、中学18クラス～20クラス×30名＝540名～600名、高校30クラス～31クラス×35名＝1050名～1100名 合計1600名～1700名程を目標に、教職員数の適切化と授業料の改定を含み経営の健全化に努める。
(2)組織・業務の効率化、設備の効率化等によるコスト構造の見直し [法人・大学・中高]	
法人	・業務内容、業務量に応じた適正な人員配置と予算の適正配分の実現 ・将来を見据えた設備投資計画、中長期修繕計画の策定と計画への反映
大学	・ICTを活用したより効率的、効果的な事務処理に努める。
中高	・急速な出生数減による影響を見据えた部署の統合、業務分担の協働化と120周年事業に向けた施設・設備の有効活用の検討を進める。
(3)教育・研究を起点にした産官学連携等による外部資金獲得増強 [法人・大学]	
法人	・周年事業や校友会（東工日駒同窓会・工友会）、自治体等との連携による寄附金収入増加への貢献 ・将来を見据えた企業や他学、地域等と連携した保有資産の有効活用等の検討
大学	・外部助成金情報の展開による応募の活性化等、外部資金獲得を積極的に行うための研究活動活性化等を進める。 ・応用研究を積極的に社会還元するため、社会に注目される研究を推進する。

4.発展と調和に貢献する
社会的価値の
持続的創出

(1)本学が有する教育研究資源を活かした社会貢献、社会実装 [法人・大学]	
法人	・本法人の持つリソースの効果的な情報発信による社会貢献の推進
大学	・従来の産学連携強化だけではなく、官・金との連携強化を推進し、学・官・金が互恵的な関係を維持できる仕組みづくりを進める。 ・農業分野への実工学的アプローチなど本学が有する教育研究資源を活かし、地域とも連携して社会に貢献する。
(2)DXによる組織風土の変革への取組み推進 [法人]	
法人	・実効性の観点から本学共通のプラットフォームを構成する横断的な業務、体制の見直し ・業務プロセスの見直しを踏まえた効率化の推進 ・多様な働き方など環境変化に対応する一層の働き方改革の推進 ・学内ネットワークの最適化による情報セキュリティ体制の強化とシステム運用体制の改善
(3)持続可能な社会実現のための持続的・多面的な取組み推進 [法人・大学・中高]	
法人	・SDGs推進に向けた取組みやカーボンニュートラル実現に向けた学内ネットワークの構築 ・本学を取り巻く様々なステークホルダーとの連携推進による持続可能な社会の実現に資する価値の創造
大学	・キャンパスカーボンニュートラルロードマップに沿った省エネ、創エネ、省コストの実践を行う。 ・地域カーボンニュートラルを目指す、宮代町ゼロカーボン推進協議会への積極的な参加による協働を行うと共に、各事業活動への若い力の創出及び技術的支援を行う。
中高	・Tokyo-NbSアクションに参画し、社会へ貢献を発信するためには生徒自身が次につなげる提案を考え、形にする。例えば「K-Cowork緑化」「ミミズコンポスト管理」「日本ミツバチ飼育」を推進し、SDGsの理念に基づき社会的価値への実現を目指す。

進捗管理

P10



推進・進捗管理体制

